

(1) 業務への取組体制

プロジェクトの複雑性と重要性を深く理解し、ニーズや期待を上回る価値と性能と効率性を提供するための、実践的かつ協調的なアプローチを重視し、西和賀町の皆様が誇りに思えるような、美しく、機能的で、そして地域に深く根差した施設を創造することをお約束します。

【地域特性への深い理解と実践力】

- 私たちは、西和賀町の気候風土、文化、町民のニーズに対し深い敬意と理解を持っています。これまでに地域に根ざした公共施設の設計経験が豊富であり、地域材の活用や雪国特有の設計ノウハウを熟知しています。
- 単なるデザインではなく、地域の資源を活かし、地域に貢献する建築を常に追求します。

【西和賀町の皆様と対話しながら、一緒に考え、共につくる】

- 設計や福祉・防災・環境の専門家をはじめ、町民及び病院関係者・地域機関やボランティア団体、西和賀の子育てと教育を考える会等と交え、それぞれの利用者が様々な視点の意見交換を行う「デザイン会議」を開催し、利用者と協働した施設を「共につくる」姿勢を重視して業務を遂行します。
- 定例会議等の実施、情報共有ツールを活用し、設計の意図、制約条件、変更点などを全ての関係者が共有できる体制を整え、情報共有を徹底します。

【住民参加型デザインへのコミットメント】

- 私たちは、施設が西和賀町の皆様にとって真に役立つものであるためには、設計プロセスに町民の声を積極的に取り入れることが不可欠だと考えています。
- ワークショップや意見交換会を企画・実施し、施設を利用する方々の生の声を設計に反映させることで、住民に愛され、長く利用される施設を目指します。

(2) チームの特徴

【ビジョンの共有と多角的な専門性】

- 当チームは、様々な公共施設・福祉施設等多くの設計や施工の実績があります。プロジェクトの最終目標を全員が深く理解し、建築、構造、設備、インテリアなど、必要なあらゆる専門知識が有機的に連携を取り、初期段階から多角的な視点で議論を重ねること、機能性、安全性、デザイン性を高いレベルで連立させます。

(3) 業務スケジュール

綿密な初期計画、厳格な進捗管理、迅速な意思決定、徹底した品質確保、そして全関係者との密な連携を通じて、提案した工期を確実に厳守し、最高の品質で完成させることをお約束します。

【綿密な初期計画と定期的な進捗管理】

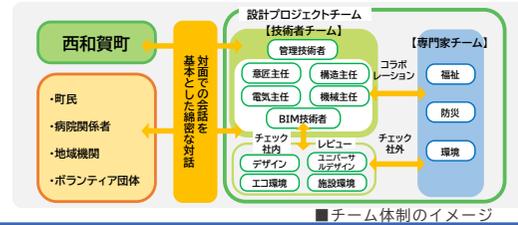
- プロジェクト開始時に詳細なWBS（作業分解構造）を作成しクリティカルパスを明確化します。節目ごとの鍵となるマイルストーンを設定することで検討事項と決定時期を整理し、常に西和賀町とスケジュールを共有し、相互に納得した上で合意を形成します。
- 計画の初期より段階的に設計仕様の検証と品質や機能、デザインの向上とコスト抑制のバランスに配慮したコストコントロールを行い、費用対効果の高い建物の品質管理を行います。

【効率的な意思決定】

- 意思決定者と時期を明確化し、情報共有を徹底します。リソースを柔軟に配置し、迅速な判断で承認遅延と工期への影響を防ぎます。

【品質への徹底したこだわりと柔軟な対応力】

- 責任者を明確にし、検討者、提出日決定期日等を整理した管理表を通じ、町の担当者との合意・意思決定に従い、要望事項を確実に反映します。
- 西和賀町独自のデザインと機能性を追求するだけでなく、長期的な維持管理のしやすさ、経済性も考慮に入れたバランスの取れた設計を心がけます。
- 施設の計画段階からBIM（3Dモデル）を活用して、視覚的・直感的にわかりやすい資料を提示し、町の担当者や設計意図の共有化を図り、設計内容の見える化に努め、要望事項のヒアリング、提案内容の説明、フィードバックの反映迅速に行います。
- 設計段階から工事段階、竣工後の数年後（例えば3年、5年、7年、10年）といった形でアフターケアも主要メンバーが未永くサポートします。



【コミュニケーション力と協調性】

- オープンで建設的な対話が日常的に行われ、率直な意見交換と迅速な情報共有を可能にします。互いの専門性と人格を深く尊重し、建設的なフィードバックを通じてデザインを磨き上げます。チームとしての成功を何よりも優先します。

【品質確保と手戻り防止】

- 各フェーズでの設計レビューと図面・資料の整合性確認を徹底します。後工程での大幅な手戻りを最小限に抑える計画とします。

【先進的な事例を視察】

- 先進的な取り組みを視察することは、ベストプラクティスを学び、自らのプロジェクトや組織の質を高める上で非常に有効な手段です。実情やニーズに応じた細やかな計画を提案します。

【協力業者・関係者との連携強化】

- 早期から協力業者と情報共有し、スケジュールや作業内容を確認します。工事発注時には建設業者と工期厳守に向けた具体的打ち合わせを行い、共通認識を構築します。

(4) 設計を進めるうえで特に留意すること

西和賀町の本施設は、単に保健機能を提供する場に留まらず、地域住民が世代を超えて交流し、心身の「健康と幸福」を共に育み、暮らし続けられる地域づくりの核となる拠点を目指します。

【多世代交流と「健康」を促す空間デザイン】

- バリアフリー・ユニバーサルデザインの徹底
乳幼児から高齢者、障がいを持つ方、職員まで、全利用者が安全で快適に移動・滞在できるように、段差の解消、適切な幅の通路、サイン計画、多機能トイレの配置などを徹底します。
- 多様な交流機会の創出
自然発生的な交流を促す開放的なロビーやラウンジ、子どもたちが遊びながら学び、親同士が交流できる子育て支援スペース、高齢者が集える憩いの場など、異なる世代が自然に混ざり合える空間を複数設けます。
- 五感を刺激する快適性
自然光を最大限に取り入れ、明るく開放的な空間を創出します。町内の木材活用による温もりや、自然換気を取り入れた快適な空気環境、音環境への配慮など、利用者が心身ともにリラックスし、「健康」を感じられる環境を目指します。

【利用者との運営者視点の機能性と柔軟性】

- 機能連携の実現
保健、子育て、福祉の各機能が有機的に連携し、利用者が目的のサービスへスムーズにアクセスできる動線計画と、プライバシーに配慮した相談スペースや内部空間を確保します。
- フレキシブルな空間構成
将来的な町民ニーズの変化や、サービスの拡充に対応できるよう、間仕切り変更が容易で可変性のある可動壁や仕切り、家具配置を可能にするなど、柔軟性を持たせた設計とします。
- 維持管理・運営のしやすさ
衛生面・感染症対策を徹底するとともに施設の清掃性、設備のメンテナンス性、セキュリティ、スタッフの動線効率などを考慮し、長期的に安定した運営が可能な設計とします。



【既存地域資源との連携とシンボル性】

- 周辺施設・交通網との接続性
さわうち病院などの既存施設や、主要な公共交通機関、駐車場との連携やアクセス性を考慮し、町民が利用しやすい立地・配置とします。
- 地域のシンボルとしての役割
施設のデザインが既存病院との連携性や一体感を持たせ、西和賀町の自然景観と調和しつつ、町の新たな施設として、町民に愛着と誇りをもたらすような魅力的な外観とします。
- 【西和賀町の地域性と環境への配慮】
地域材の積極的な活用
西和賀町産の木材や石材などを内外装に積極的に取り入れ、西和賀町の色を表現するとともに、温かみと安心感のある空間を創出します。地域経済への貢献にもつながります。

● 温もりのある快適な環境づくり

- 利用者及び職員の健康と快適性を追求した空間を提供することを考え、自然素材にこだわり、建具、床、家具などは無垢材、自然系植物性塗料などの自然で温もりのある素材を多用します。
- 積雪・寒冷地仕様の設計
西和賀町の気候特性を考慮し、雪処理、断熱性能、凍結防止対策など、積雪寒冷地に適した構造・設備計画を徹底します。高断熱・高气密設計を徹底することで、快適な室内環境と、光熱費を抑えた経済的な運用を実現します。樹脂製トリプルガラスサッシや高耐久性の規格屋根材等を採用で、初期投資を抑えつつ、高い断熱性能と長期的なメンテナンスコスト低減を両立します。



(5) 設計上特に配慮する事項等

【安全・効率的な積雪・堆雪計画】

- 敷地内の落雪、排雪動線を考慮した最適な堆雪エリアを確保します。
- 安全な歩行者・車両動線を確保し、除雪作業を効率化します。
- 高性能材料により建物損傷を防ぎ、長期維持管理コストを低減します。

【省エネルギー・持続可能性】

- さわうち病院既設機械棟の既存ボイラーの熱供給余力を本施設へ供給し、主要な暖房・給湯熱源として利活用を検討するとともに、高効率設備、自然エネルギーの活用、高断熱・高气密化を図ります。

【執務環境の快適性向上】

- 職員の仕事効率を高めるため各業務エリア間の移動を最適化します。
- 天井・壁・床に吸音性の高い素材の使用や個別吸音パネルやブースの導入を検討し、音環境を最適化します。
- 休憩スペースやリフレッシュ空間を検討するなど、職員の快適性にも配慮します。



下記の6つの項目について私たちは検討・配慮し業務を確実に遂行します

地域性	安全性	快適性	経済性	利便性	柔軟性
<ul style="list-style-type: none"> ・周辺環境との調和 ・気候や風土との共生 ・地域産木材利用の推進 ・地域との対話 ・地元企業との連携 	<ul style="list-style-type: none"> ・安心安全な防災避難計画 ・ユニバーサルデザインの確保 ・施設内感染防止対策 ・長寿命化、高耐久性 ・構造検討による積雪、地震への対策 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の利便性の確保 ・プライバシーの確保 ・運営管理の合理性 ・衛生的環境の維持確保 ・快適な室内環境の確保 ・執務環境の快適性の確保 	<ul style="list-style-type: none"> ・維持管理のしやすい設備 ・徹底した省エネ管理 ・施設サービスの効率化 ・建設コストの縮減 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用アクセスの単純化 ・操作しやすい設備 ・機能の単純化 ・スタッフ動線の短縮化 ・明確な利用動線 	<ul style="list-style-type: none"> ・設備、間仕切り壁の汎用性な対応 ・情報化社会への対応 ・社会情勢の変化対応 ・レイアウト変更への対応

a 設計の理念と考え方

「森がつむぐ、いのちのゆりかご ～西和賀 健幸未来拠点～」

西和賀町は、豊かな自然に恵まれ、美しい四季の移ろいを感じられる地域です。しかし、高齢化や人口減少といった課題に直面しており、地域住民の健康増進と生きがい創出、そして持続可能な地域社会の実現が喫緊の課題となっています。



本提案は、「森がつむぐ、いのちのゆりかご」を設計の理念とし、西和賀町の豊かな自然環境と共生しながら、地域住民が心身ともに健康で、安心して暮らせる「健幸未来拠点」を創造することにも、自然との触れ合いを通じて、人々のつながりを育み、新たな活力を生み出す、西和賀町ならではの拠点を創出することを目指します。

b 施設のコンセプト等骨格となる考え方

【「森の健康ゆりかご」としての安心感と育成】

安心して集い、心身の健康を育める温かな場所

西和賀町の豊かな自然、特に「森」が持つ、生命を育み、安らぎを与える力を施設の根幹にして、乳幼児から高齢者まで、すべての町民が安心して集い、心身の健康を育める場所を目指します。

木材を多用した温かい空間、自然光が差し込む開放的な設計により施設全体が、多様な世代の「いのち」を優しく包み込み、健やかな成長と生活を支える「ゆりかご」のような存在を目指します。

【「健幸（けんこう）未来拠点」としての多世代交流と地域共創】

成長・変化する空間へ物理的な柔軟性

当施設は、町民一人ひとりの「健康」と「幸せ」を育み、未来へと繋がる「健幸（けんこう）未来拠点」とし、将来の多様なニーズや変化に柔軟に対応できるよう、空間そのものの物理的な可変性を重視します。これにより、異なる世代間の交流や多様な活動を効果的に支え、地域全体の活力を高めます。

【ひだまりの縁側】雪国の厳しい冬に、温かい光と繋がりをもたらす回廊】

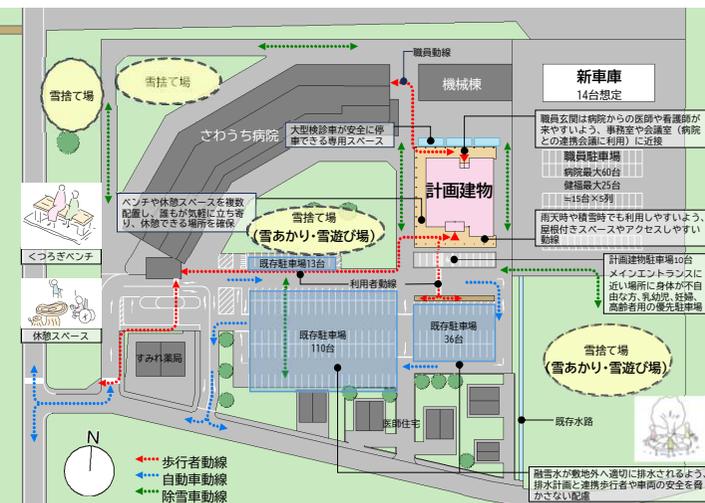
自然な「繋がり」を育む交流の場

雪国・西和賀の文化である「雁木（がんぎ）」を施設全体を巡る回廊として設計します。冬でも日差しを取り込み、温かさと安心・安全を提供するこの「縁側」は、人々が立ち止まり、語り、自然な「繋がり」を育む交流の場となります。

c 配置の考え方

【配置計画】

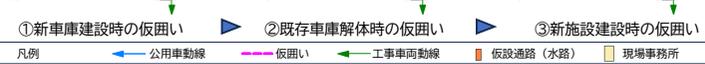
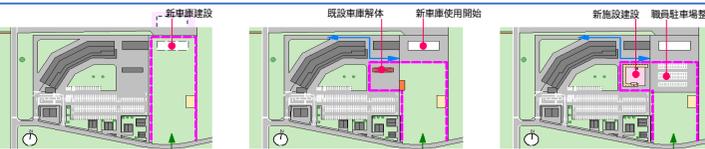
- 計画建物は既存車庫解体後に跡地を整理し建設します。
- 既存駐車場は来客用として病院と共用利用します。新たに計画建物の南側には多目的を含めた10台、東側には職員用を最大85台を配置する計画とします。
- 除雪が容易になるよう建物周辺は段差のない十分な通路幅を確保します。
- 雪捨て場（既設利用も含め）は、分散させ4つの場所に設けます。特に中央の雪捨て場は雪灯りなどの様々な催しやイベントを楽しむことができます。
- 【動線計画】職員や医師等が病院と計画建物を往來する距離が短くなるよう計画します。
- 検診受付後に回廊を通り、夏の暑さや雨天時など天候に左右されず検診車での検診を受けられる計画とします。
- 自動車は従来通り一方通行で利用することとします。
- 除雪車が4つの雪捨て場に効率的に除雪できるように計画建物を配置します。



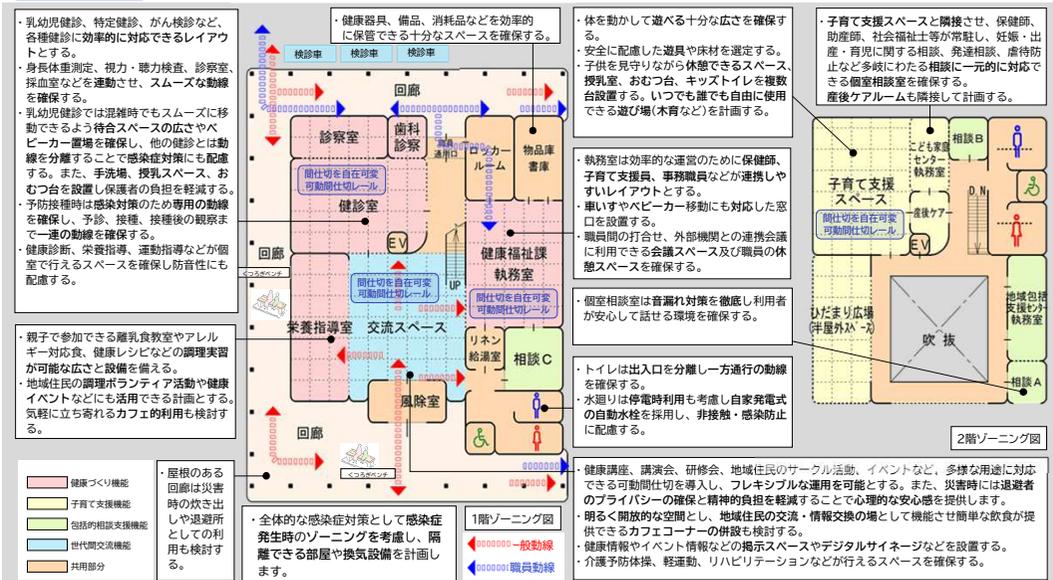
完成イメージ

【仮設計画】

- ① 新設車庫を建設するため敷地に沿って仮囲いをします。工事車両出入口は利用者動線から離れた位置と安全に配慮します。
- ② 既設車庫を解体するための仮囲いをし、水路があるため仮設通路を設置します。公用車は病院外周を通り新設車庫を利用できるようにします。
- ③ 新設時と同時の職員駐車場も整備します。



d 施設計画



e 構造・設備の提案及びコストの縮減

【構造の提案】

- 豪雪地域に対応するため、耐積雪性・耐震性を確保した堅牢な構造と屋根形状、高耐久性素材を選定し、長寿命化に配慮します。同時に、コスト縮減と地域材活用を両立させるため、シンプルで合理的な構造計画とし、西和賀町産の木材を積極的に活用します。
- 勾配、金属屋根素材、屋根の葺き方を組み合わせたモックアップを用いた滑雪実験を行い、雪処理および構造への負担軽減効果を科学的に実証する検討を進めます。

【設備の提案】

- 高効率空調、LED照明、熱交換換気、高効率設備機器を積極導入します。
- 非接触型設備の採用や高性能フィルター付きやCO2濃度センサーと連携した換気システムで感染症対策を強化します。
- ICTを活用し、BEMSによるエネルギー管理やWi-Fi整備を通じて、効率的な運用とサービス提供を図ります。
- 初期費だけでなく長期的な運用・維持管理費を含めたLC視点で最適化を図り、設計段階から機能とコストバランスを検討し無駄を排除します。

f 木材の利活用

【西和賀のぬくもりと共生する空間】

- 西和賀町の豊かな森林から生まれた木材を内装に多用することで、訪れる方々が五感で「森のぬくもり」を感じ、温もりと癒やしに満たされる施設を目指します。
- 木材の有機的な道具や家具は、視覚と触覚で木の温もりを伝え、その音響効果はまるで森の中にいるような心地よい響きを届けます。さらに、地元産木材の端材で作られたおもちゃを常備し、子どもたちの豊かな感性を育む「木育」の場を提供します。

g 豪雪地である地域に配慮した計画の考え方

【集中雪捨て場・融雪施設の最適配置と多目的利用】

- 排雪ルートに沿って、大容量の集中雪捨て場を複数箇所に分散配し、一部には、既存ボイラーの熱供給余力を有効活用した融雪利用も検討します。
- 【安全な交通・歩行空間の確保】歩道には、積雪を避け、安全な歩行を確保する屋根付きの回廊や、融雪機能を持つ舗装材の採用を検討します。
- 【地域に根差した省エネとレジリエンス強化】BEMS/HEMS連携によるAIを活用し、施設と地域全体のエネルギー供給を最適化することで、効率的な運用とレジリエンス強化を図ります。

【コスト縮減の提案】

- 地域材・地域工務店の活用による輸送コスト削減と地域経済活性化の両立、そしてシンプルでコンパクトな設計による効率的な空間構成と多目的利用で延べ床面積を最適化します。
- 安全で快適、かつ持続可能な施設運営を実現し、町の財政負担を軽減します。

項目	効果
構造躯体の耐久性向上（長寿命化）	付加断熱工法を採用することで湿気・結露を抑制し、構造体の劣化を低減させ、建物の耐久性を向上させます。
冷暖房エネルギー削減	外部からの熱負荷が大きい開口部に樹脂サッシ（トリプルガラス）を採用することで、断熱性能を高め、冷暖房コストの削減し、24時間換気との相乗効果で結露の防止などによる健全な室内環境を確保します。
環境への負荷削減	建設副産物の発生を抑制し、再生資源を効率よく活用することで環境に対する負荷を低減します。
インシャルコスト	設備品材を積極的に活用することでインシャルコスト・時間的コストを低減させ、経済的かつ計画的な補修・維持管理を容易にします。
ランニングコストの削減	LED照明と日光利用制御や自然採光・通風を積極的に活用することでコストを低減します。
総合的なコストの縮減	建設費・光熱費・修繕費・保全費・解体費等、施設建設から廃棄までの総合費用（ライフサイクルコスト）の低減、品質の向上を図ることで、トータルコストを縮減します。

【雪国の知恵と技術の継承】

- 豪雪地帯に適した樹種を選定し、雪囲いや深軒といった伝統的な雪国建築の知恵を現代の技術と融合させます。地元工務店や職人との連携を強化することで、高品質な施工を実現し、地域の技術継承と維持管理を促進します。
- 豊かな森林資源を活かし、「体験」「学び」「交流」を重視した「木育」ワークショップスタジアムや花巻おもちゃ美術館との連携を核に、町民、子どもたち、観光客など、多様な人々を呼び込み、交流を活性化させることを目指します。

【雪に強く、雪を活かす木造建築】

- 積雪・地震に極めて強い高剛性・高強度な木造架構を実現します。
- 必要に応じ、木材とRC/鉄骨のハイブリッド化の検討や、高性能金属・接合技術で構造強度と粘り強さを最大化します。
- 徹底した付加断熱と高气密施工（トリプルガラス樹脂サッシ等）で熱損失を最小限に抑え、結露を防止します。
- 【雪の影響を軽減する強化策】雪による影響を軽減し、建物の耐久性を高めるため、基礎・立ち上がり・1階床（FL）を高くし、雪に埋もれるのを防ぎ、雪圧や浸水を軽減します。また、外部束柱の根巻き（H1.2m）をコンクリートとし、湿気や凍結融解から木材を保護し、腐食を防ぎます。